

予算審査特別委員会

一般会計予算37億5,960万8千円

※質疑・応答は、要約し抜粋を記載しています。

掲載の順番は、第5次総合計画のまちづくり項目の順番です。

産業の再生による雇用の創出・次世代を担うリーダー等の育成

◎水産業、水産加工業

問 熊野委員 ナマコについては、漁業者が高齢化する中で漁家所得を上げる目的で、町で施設改修をして漁協に引き継いでいるが、町としても成果を確認し、目的達成に努力が必要と思う。現状についてどうなっているか伺う。

答 現状は、漁協が自前で採苗し、稚仔をとっている。良い年は10万以上取れることもあるが、安定的な稚仔確保ができない状況だが、努力しながら吉岡・福島・白符漁港に放流している。組合の方針として、港内放流は漁協直営で採取しているが、直営で採る年と採らない年があり、安定的な漁獲になっていない。

◎農業

問 佐藤委員 農村生活グループの補助金が計上されていないようだが、解散したのか？

答 農村生活改善グループの補助金は、従前どおり計上しているが、高齢化や人数が集まらない等の理由で団体運営に支障をきたしている状況と聞いており、3月の総会に向けて、相談をしたいということ伺っている。

◎林業

問 杉村委員 ヤマユリは福島町の町花だが、町内でも目にすることが少なくなってきた。森林公園で管理している、ヤマユリの自生数と管理状況を伺う。

答 ヤマユリの数は年々少なくなってきたおり、現存のヤマユリを枯らさないように工夫している。特にシカの食害が多く、植生地をテグスで囲み、鹿が近寄らないよう管理している。

◎観光、交流

問 平沼委員 観光情報発信事業として、新たなホームページを立ち上げ、また、観光PR用のノベルティ（※特殊広告の1種で、社名・商品名等を入れて無料で進呈する贈り物の総称）を購入し、各イベントでPRするということだが、どのような物を、どのような場所で、どのような形で配付するのか？

答 うちわを2,500枚作成し、女だけの相撲大会来場のお客様に配付することを想定し、福島町をプレゼンしていく時に配布する。福島町のデザインでお菓子（うまい棒）を3,500個くらい作り、町内各施設に置いたり、いかまつりの受付で配付する。効果は未知数だが、取り組みを進めたい。



女だけの相撲大会



トンネル記念館

問 川村委員 両記念館の入館者が減少している。ともに顕彰施設で、何度も足を運ぶとは考えづらい。クルーズ事業、伊能忠敬の資料、縄文土器などリンクできないか？

ツールとして、年間パスポートを発行し、2回目以降は無料で入館できる仕組みにし、経済効果に結び付ける考えはないか？

答 両記念館は、展示物の衣替え等、職員が努力しているが、入館者の増には結びつかない。提案は、確約できないが、集客につながることをしていきたい。年間パスポートについては一時議論になったが、導入すること

により、収益が減る、利用者増による町内波及効果と施設の減収のバランスを考えていかなければならない。

豊かな環境と若者等の定住対策・子育て環境の充実

◎産業創造と雇用労働対策

問 木村委員 産業活性化サポート事業については、起業する中で新たな雇用を創出しなければならぬという大きなハードルがあり、そのため、がんばる地元企業応援事業に流れていると見えるがどうか？

答 産業活性化サポート事業は、新分野・異業種への進出、農工商連携など5つの対象事業があり、補助金の限度額は100万円、補助率は10分の10となっているが、がんばる地元企業応援事業についても、新規参入者を排除していない。

平成32年度に向けてがんばる地元企業応援事業の制度改正を視野に入れている、ご指摘の件についても過去の実績を踏まえながら精査していきたい。

町民の安心安全な暮らし

◎保健予防・健康づくり

問 平沼委員 ガン検診について、実際に検査してガンが見つかった割合は把握しているか？また、その再受診につなげていく手法についてはどうなっているか？

答 ガン検診の種類は全部で5種類ある。受診者が一番多いのが大腸ガン検診、次いで肺ガン検診、胃ガン検診と続く。担当する保健師2名が精密検査の通知、声掛け、勧誘等を行っている。

福島町では、小笠原先生が平成24年から胃ガンのリスク検診（いわゆるABC検診）を導入し、ピロリ菌が多い方を2次検診で胃カメラ検査し、がん治療を行ったケースも何件かある。未受診者をいかに取り込んでいくかが大事であり、普及啓発に努めていきたい。



健康フェスティバルでのABC検診

◎地域福祉

問 平沼委員 戦没者追悼式事業について、遺族の高齢化も目立ってきており、今後の事業展開で参加者の減少は否めないと思うが、平和宣言をした当町が今後どのようにこの事業を進めていくのか伺う。

答 平成31年度については、町長・町議選挙が8月16日に予定されていることから、従来どおり7月に実施したい。平成32年度以降は、終戦記念日の8月15日も候補に遺族会は解散しているが、関係者の方々と協議していきたい。

◎ごみ処理・リサイクル

問 佐藤委員 春と秋の空き缶ゼロの日に参加し、トラックで回り、大きな不法投棄されたものを運び、役場に回収してもらっている。何十年も参加しているが、不法投棄はますます増えている印象を持っている。

答 特に千軒の住川地区は住人がいなくなつてから多い。集中的に監視していただきたいし、監視カメラについても検討いただきたい。

◎住宅

問 木村委員 空き家対策の委託料で、応急措置で20万円とあるが、どのような対策か？

答 平成30年度でも台風等の際、空き家の屋根のものが飛んだこともあった、そのための予算を用意し、緊急時に処理するため、少ない額ではあるが、計上した。具体的には、人件費、作業員等の賃金を想定している。

◎火葬場、墓地

問 花田委員 合葬式墓地の申込者数・利用者数が記載されているが、去年、町民と議員との懇談会である地域に行つたら、生前登録の話を真剣にされている方がいた。その辺の状況を教えて欲しい。

答 申込者数は28名で、利用者が13名となっている。これは、13名が埋葬され、差し引き15名は生前登録ということで、ご本人等が申込みいただいたものです。

◎防災

問 熊野委員 戸別受信機が設置されてから時間が経過しているが、各家庭における点検や状況の把握について伺う。

答 戸別受信機の定期的な検査は、実施していないが、住民から聞こえづらいなどの話があれば、担当が訪問して確認する。

テレビの傍に設置している場合は離して設置するとか、電池が切れている場合は個人で交換してもらおう。

設置から年数が経つて来ているので、どこかの時点で定期的な検査を実施することも必要と考えている。



不法投棄ゴミ



戸別受信機



スクールバス

学び合い、
たくましい人を育てる

◎幼児教育、学校教育

問 木村委員 学校選択制実施に伴い、4月からは吉岡地区から福島小学校に通う児童3名は、どのような形で輸送するのか？

答 スクールバス運転技術員が65歳となり、雇用を更新しないで、町内業者に業務委託する。保護者には、中学校の生徒と同様、各地区のバス停から乗降する形になる旨お知らせした。

今の運転技術員、委託予定業者、学校の教頭先生、教育委員会が詳細に打ち合わせをし、問

違いの無いように4月から運行させたい。

協働のまちづくり・ 行財政運営の充実

◎財政運営

問 平沼委員 ふるさと応援基金費で、寄付者が社会的投資の具体化により、個性あるふるさとづくりを推進するとあるが、事業内容が見えてこないのに課題がないという評価はどういうことか？

ふるさと納税に一般財源が使われているが、ふるさと納税でいただいたお金を財源として、返礼品を準備するのが筋ではないか？

これまでの寄付金が2,500万円くらいと思うが、今後の方向について伺う？

答 この科目はふるさと応援基金費で、寄付者の社会的投資の具体化は、積立金という形になっている。活動指標は寄付者300人としており、寄付者・額が少なかつたことが課題です。予算額は、毎年約100万円の寄付が集まるので、それを計上

している。

別科目のふるさと応援基金運営費に、新たな「ふるさと納税システム支援事業」があるが、これは、ふるさと納税ポータルサイトで福島町の特産品をPRし、地場産品の消費拡大とふるさと納税額の増加を目指すもので、7月から始まるので、寄付金の額や返礼品にかかる経費、ポータルサイトへの手数料、送料などは、6月会議で補正したい。



ふるさと納税返礼品

問 溝部議長 公約で、財政調整基金は任期内で10億円を維持するとある、当初予算で、3億7千万円の基金繰り入れとなつているが、10億円堅持の線は崩れないということが良いか？

「議員と町民との懇談会」で、積極的な政策を評価する一方で、財政面での心配をする声があり、議員から基金の状況（公共施設・備荒資金も含めて）を説明しているが、がんばる地元企業応援事業は、2年間、1億4〜5千万円の一般財源になつており、町民も懸念する声が多かった。

答 財政調整基金は、当初予算に約2億4,800万円の一般会計繰り入れを計上している。財政推計上は繰越金の2分の1を積み立てて、計上している繰入金を取り崩す形で考えている。そのままではまれば、平成31年度末は10億9,200万円の基金残高になる。

がんばる地元企業応援事業費については、当初予算で6千万円計上しているが、財政推計上は実績勘案のうえ8千万円上乗せし、1億4千万円。除雪費についても当初5千万円だが、3千万円上乗せし8千万円と、決

算に近い推計をしている、10億9,200万円という数字が、「まちづくり行財政推進プラン」で示した財政推計になる。

補正予算も議決したが、除雪費も、降雪が少ないので、不用額が多くなれば繰り入れを減らすことができる。

地方消費税交付金や特別交付税確定に伴う留保財源も予定されている。

まちづくり行財政推進プランを当初策定した時、町立病院設置の計画はなく、当初の計画からのズレはある。

この4年間、公約で示したことを中心に政策予算を多く使わせていただいたが、今後は、財政安定が無ければ、町民の方々に負担を強いることになるので、財政の弾力性を持たせるためにも、10億円維持のラインは必要と考えている。